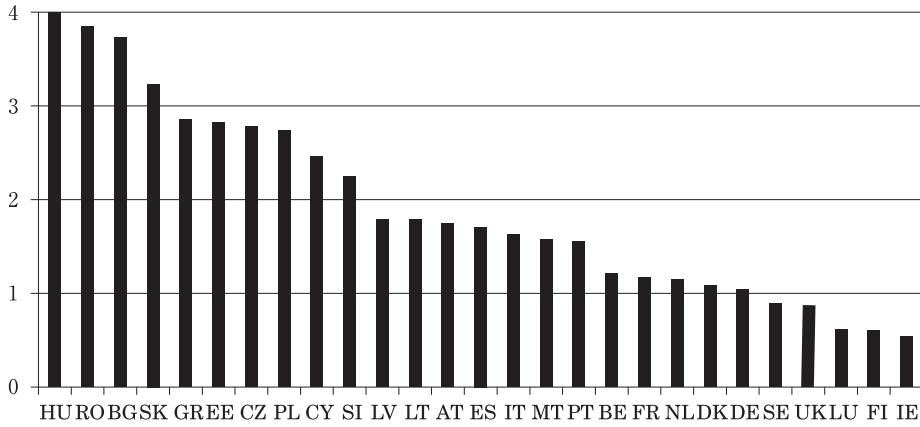


図2.3.10 国毎の総資産に対する純金利収入：2011年（%）



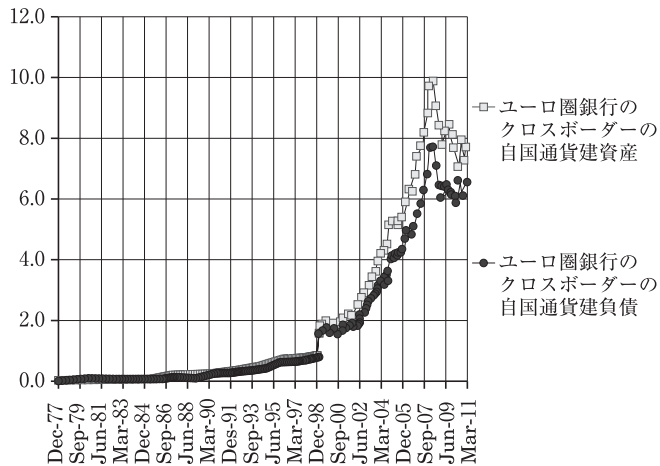
出所：ECB 統合銀行データ。

2.3.3 国際業務の拡大

銀行部門の成長は EU 内および世界規模の双方での国際業務の拡大を伴っていた。金融的統合は急速に進展し、各国間の巨額の信用やその他資本の流れに拍車を掛けていた。欧州銀行は、EU 単一市場のおかげで、またユーロ圏内では共通通貨のおかげで、特に急速に国際業務を拡大した（図2.3.11）。

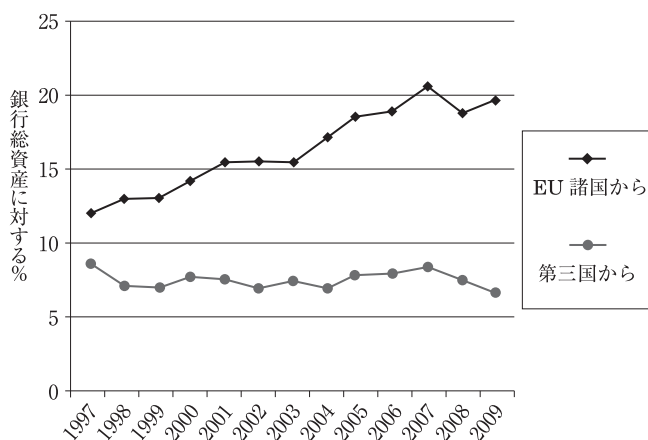
EU 銀行市場でのクロスボーダーの進出もまた、特にホールセール市場で、危機以前に増大していた（図2.3.12）。しかし、銀行のクロスボーダー進出の程度は EU 加盟国間で大きく違っている（表2.3.2）。いくつかの EU 加盟国では、特に EU15（訳者注：20世紀の EU 加盟国）という相対的に大きな経済諸国では、国外銀行の資産の割合はより限定されている。これらの加盟国は他の加盟国に対して銀行サービスを輸出する傾向に

図2.3.11 ユーロ圏銀行のクロスボーダー資産・負債：1977-2011年（兆ドル）



出所：Shin (2012)。

図2.3.12 EUにおけるクロスボーダー銀行資産の割合：1997-2009年



注：銀行総資産に対する国外の子会社・支店の資産の割合を示す。
EU27カ国についての計測。

出所：Schoenmaker (2011), ECB データに基づく。

表2.3.2 外銀子会社・支店と比べた国内信用機関の数と総資産：2011年

	信用機関の数	国内 (%)	外国 (%)	総資産 (10億ユーロ)	国内 (%)	外国 (%)
AT	707	90.9	9.1	1,166	74.9	25.1
BE	17	58.8	41.2	1,147	48.5	51.5
BG	31	25.8	74.2	39	23.5	76.5
CZ	38	13.2	86.8	168	5.1	94.9
CY	39	15.4	84.5	125	68.4	31.6
DE	1,734	95.3	4.7	7,996	94.8	5.2
DK	113	95.6	4.4	920	87.7	12.3
EE	18	22.2	77.8	20	5.7	94.3
ES	230	44.3	55.7	3,915	92.1	7.9
FI	111	73.0	27.0	634	22.1	77.9
FR	17	82.4	17.6	6,674	96.7	3.3
GR	40	27.5	72.5	425	80.8	19.2
HU	172	82.6	17.4	110	39.1	60.6
IE	31	12.9	87.1	1,193	32.0	68.0
IT	67	82.6	13.4	2,794	91.5	8.5
LT	19	21.1	78.9	24	9.9	90.1
LU	141	7.1	92.9	795	7.9	92.1
LV	28	42.9	57.1	26	37.7	62.3
MT	26	38.5	61.5	52	20.2	79.8
NL	92	31.5	68.5	2,832	88.8	11.2
PL	640	91.9	8.1	297	36.2	63.8
PT	109	50.5	49.5	513	77.8	22.2
RO	39	17.9	82.1	84	16.7	83.3
SE	23	87.0	13.0	1,618	99.6	0.4
SI	21	47.6	52.4	53	72.3	27.4
SK	30	13.3	86.7	55	11.0	89.0
UK	177	51.4	48.6	11,143	69.0	31.0
EU 全体	4,713	78.3	21.7	44,813	80.1	19.9

出所：ECB 統合銀行データ。このデータの定義と範囲は図2.3.1の MFI データと比べて異なっていることに注意すること。
たとえば、信用機関についてのデータであり、統合されたレベルで計測されている。

あり、大規模な銀行グループの本拠地である。これに比べて、他の加盟国では、特にいくつかの EU12 カ国（訳者注：2000 年代の EU 加盟国）を含めて、銀行部門は国外銀行によって支配されており、そのシェアが銀行部門総資産の 80% や 90% を超えるケースもある。

2.3.4 銀行部門の統合と巨大な金融機関の登場

EU 銀行部門は継続的に統合を経験してきた（図 2.3.13）。もっとも大きな金融機関は一般に時間の経過の中でより大きくなって来た（図 2.3.14）。危機の影響により拍車が掛って、さらなる統合が予想される（2.5.1 も参照）。その結果、市場集中度は時間が経つにつれてさらに上昇しそうである（多くの EU 加盟国の銀行部門は他のいくつかの産業部門よりは集中度は低い）。

一般的に、市場集中の尺度を部門の競争度やその欠如といわれているものと 1 対 1 で対応させることはできない。後者はまた、しかも大いに、その部門の競争可能性、つまり新規参入者が参入し既存の業者としっかりと競争できる能力、に依存している¹¹⁾。銀行部門では、新規参入は競争の観点からは、国内外の銀行にとっての公式・非公式の参入障壁、業務規制、透明性の欠如やスイッチングコスト（取引先転換の費用）のために、次善的と考えられている¹²⁾。

時間の経過の中で、いくつかの非常に大きな金融機関が登場してきたが、それらは幅広い業務に焦点を合わせ、第 3 章でさらに議論されるような、公的銀行、協同組合銀行や貯蓄銀行を含んだ数多くの小規模で異なった所有構造のより専門化した金融機関と市場で共存している。

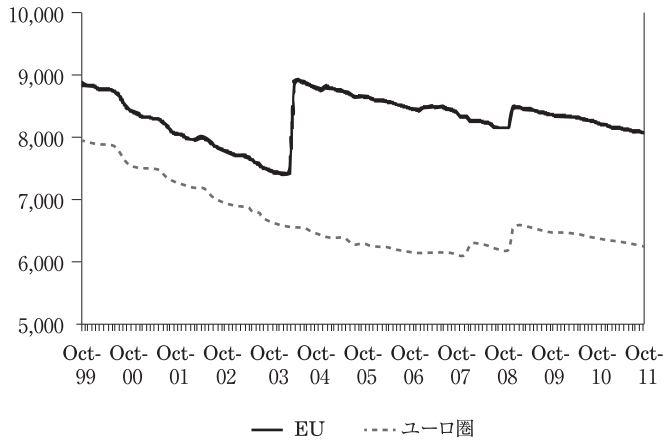
10 の巨大銀行は 2011 年末で 1 兆ユーロを超える総資産を保有しており、本拠地はイギリス、ドイツ、フランス、スペインにある。その中には、総資産が本拠地所在国の GDP を優に超えている銀行も存在する。EU・GDP 総額との比率で見ても、これらの銀行は世界的にも巨大である。2011 年に報告された資産規模世界上位 30 銀行の半分は EU の銀行である。

いくつかの国の銀行市場は大規模な国内銀行によって支配されているが（例えば、フランス、スウェーデン、イギリス）、その他の国では銀行市場はもっと多様であるという特徴を持ち、小規模銀行が存在したり（たとえば、オーストリア、ドイツ、スペイン）、EU12 カ国やその他少数の国のケースでは市場は外国の銀行によって支配されている（図 2.3.15）。こうして、規模に関していえば、銀行部門は部門全体の規模の面で違うだけでなく、個々の銀行の規模の面でも違っている。

11) 期間の短さや主題の複雑さや範囲の広さのために、EU 銀行部門に関する完全な競争分析は行われていない。しかし、ここで述べた一般的な意見は、European Commission (2007) や UK House of Commons (2011) 等といった関連する研究や報告書での知見によって裏づけられている。

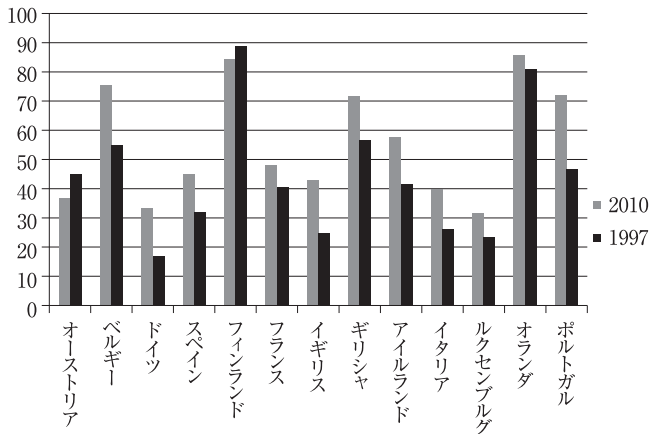
12) 公式の参入障壁とは、銀行が免許産業であることからの、法的な参入要件や監督当局による認可のことである。非公式の参入障壁は、規模や範囲の経済（少なくとも、最小の規模や複雑性に達するまでは、また業務構成にも依存する。文献レビューに関しては、第 3 章の付録 4 を参照）、評判、投入要素や技術の特権の利用、確立された販売・配送ネットワーク、失敗のリスクと費用および支配的な既存業者の行動といったものを含むであろう。

図2.3.13 MFIs の数：1999-2011年



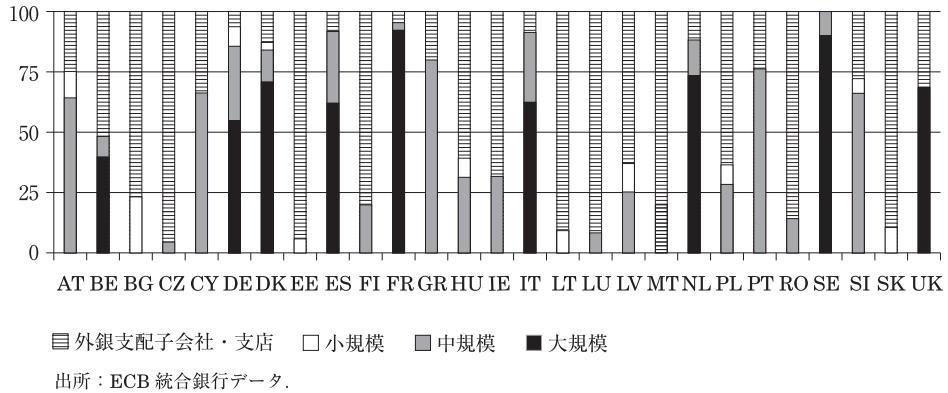
注：曲線のジャンプはユーロ圏の拡大または新規参入によるものである。
出所：ECB データ。

図2.3.14 集中度比率（総資産で測った上位 5 銀行の市場シェア， %）



出所：ECB データ。

図2.3.15 外銀支配子会社・支店と小規模、中規模、大規模の国内銀行によって保有されている総資産（総資産に対する比率，%）：2011年

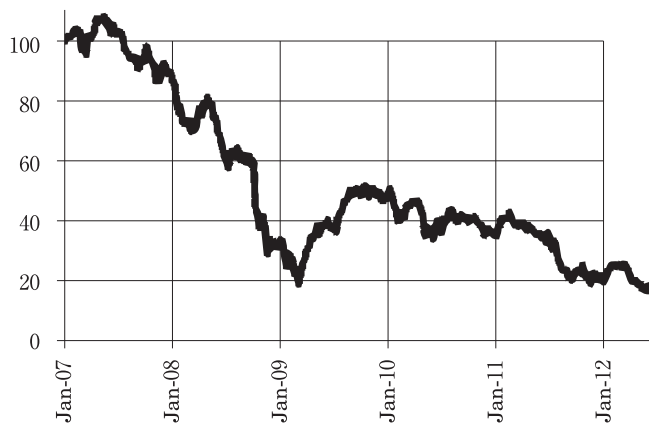


2.4 金融危機の影響

2.4.1 金融危機の銀行への影響

EU およびその他地域の銀行部門は危機のいくつかの異なった波の間に重大な損失を被り、いくつかの銀行にとっては特に深刻なものとなった¹³⁾。損失はまた銀行株の実績（図2.4.1）や株主資本利益率（図2.4.3）にも反映されている。ユーロ圏とイギリスと米国の金融株の平均累積トータルリターンは2000-2007年の期間は異例に高かったが、その後危機の打撃によりすべてが吹き飛んでしまった（図2.4.2）。帳簿上の株主資本利益率に関しては、2008年と2009年の多くの銀行の急激な損失に続いて、2010年には収益性が幾分回復したが、2011年には再び悪化した（図2.4.3）。2011年前半には収益性指標は2010年平均に相当する水準にあるが、利益の分散が増大しており、収益性が急激に低下した銀行もある。

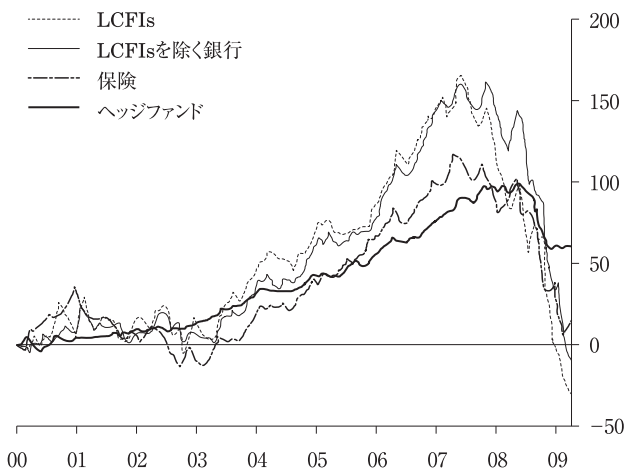
図2.4.1 株式市場の実績：ダウジョーンズ Euro Stoxx 銀行株指数（2007=100）



出所：ブルームバーグ・データ。

13) 多くのケーススタディが第3章で示されている。

図2.4.2 2000-2009年の金融機関の種類毎の累積リターン (%)

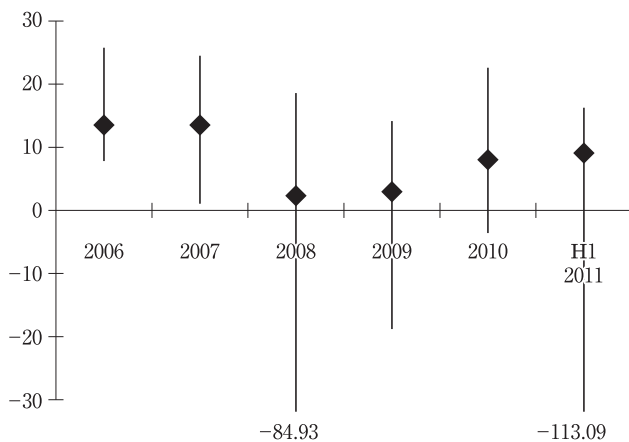


注：2009年3月時点のS&P500とFTSEとAll Share and DJ EuroSTOXX指数に含まれる銀行と保険会社について時価総額で加重平均した累積リターンを示す。全サンプル期間にわたっては上場されていない企業は除く。

出所：Halden et al. (2010)。

訳者注：LCFIsは巨大複合金融機関 (Large Complex Financial Institutions)。

図2.4.3 ユーロ圏大規模銀行グループの株主資本利益率 (2006-2011年)



注：ユーロ圏20銀行グループのサンプルに基づく。最小値と最大値と中央値を示す。

出所：ECB データ。

2.4.2 銀行の利益となった国家支援

2008年10月から2010年末の間、欧州の政府は銀行部門を助けるために、保証、流動性支援、資本増強、資産買取り措置といった形で、総額1.6兆ユーロの国家支援を行った。政府介入がなかったら、経済に対して深刻な結果をもたらすシステミック危機が現実化していたであろうと考えられていた (ボックス2.2参照)。